

さいはて社  
(滋賀県草津市)  
大隅直人さん

# 「ひとり」だからこそ良書が生まれる

## 独創的な出版活動 滋賀で10年

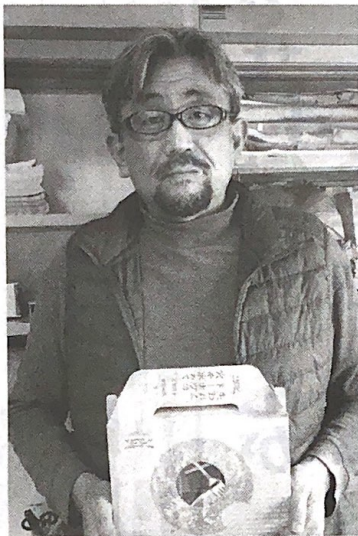
祖父は戦後活躍した紙山学者。父は歴史学者で思想史家の東京女子大学・大隅和雄名誉教授。叔父はノーベル賞を受賞した生物学者。学者一家に生まれて自らも京都大学で社会学を学ぶ。学習塾講師、学術系出版社勤務を経て、2010年に人文書系出版社、大隅書店を設立。類書が見られない独創的な書籍を出版し、昨年10周年を迎えた。【堀雅視】

### 学者一家に生まれて

大隅さんは中高一貫のを志望し、最終選考まで名門校に進み、東京大学に進学。進むも入局は叶わなかった。目指すが、学校や予備校では教師が父親の知り合いというケースが多。その後、京都の学術系村朗氏だ。吉村氏は巨大な反響を呼び、大隅さん

### 従兄の死を契機に 原点見つめ直す

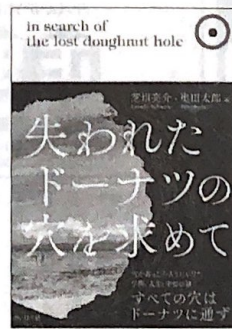
大隅さんの出版スタンスの根幹に欠かせない人物もあって、14年に写真集『Akira Yoss』を刊行。同作は大きな反響を呼び、大隅さん



『失われたドーナツの穴を求めて』の専用ボックスを紹介する大隅さん

### 「ひとり」出版社「奮闘記

「失われたドーナツの穴を求めて」の専用ボックスを紹介する大隅さん



『失われたドーナツの穴を求めて』

### デジタル化の

### 行く末見据えて

大隅さんは「10年以内、iPhoneひとつに一般の人が読む本は、あれば出版はできる」と語る。

### 出版者としての矜持

自社については「点数けられる。まだまだこれを校れば一作品に集中して、ひとりで出版する意欲を語る。

版社にならなければと力んでいた」という。しかし、この一連の経験から「自分にとって楽しいことは何か」「自分は何をしたのか」、原点を見つめ直したと振り返る。17年、社名に個人名を使うことに違和感を覚えた。大隅さんはもともと、家族の案を取り入れて「さいはて社」と改称。これより先に道はなから起業支援を受けたこと「最果て」になぞらえもあり、地方で創業したて、「チャレンジャーが大事」という思いを込めた。

企画については「私も叔父も納得できる本を出したいので、気長に待ってほしい」と話している。さいはて社に滋賀県草津市新浜町8-13

各方面から要望の多い、16年にノーベル生理学・医学賞を受賞した叔父の「穴を求めて」はA5判並製224ページ、本体1800円